

全学

体操会

山本 太郎

2024(令和 6)年度の体操会は、10 月 12 日(土)に自由学園の校庭で開催された。澄み渡る秋空の下、2,083 名の来場者を迎え、全校児童生徒・学生が一堂に会して発表を行った。今年は中等部・高等部の共学化初年度にあたり、従来の形を踏襲しつつ、新たな工夫を加える試みがなされた。行事を通じて、身体・感性教育の実践、一貫教育の発表、生活・自治教育の場としての体操会の意義が改めて確認された。

準備段階の経緯

2024(令和 6)年度の体操会は、10 月 12 日(土)に自由学園の校庭(大芝生)で開催された。本年度は中等部・高等部が共学化されて初めての実施であり、演目や運営組織に新しい工夫が求められる年となった。

前年はコロナ禍を経て数年ぶりに卒業生や保護者へ公開して行われたが、運営方針と行事規模の間に矛盾が生じた。学生生徒の主体性を重視する方針の一方で、来場者を迎える大規模行事の性格が強まり、特定の教職員に負担が集中する事態が生まれた。また、中高・学部と、生活団・初等部の間で行事のゴールイメージに乖離が見られた。

こうした課題を踏まえ、2024 年度の基本方針では「体操発表の場であると同時に全校が共につくる行事」としつつ、来場者は保護者・卒業生および関係者に限定することとした。入試広報の行事として受験生に積極的に公開することはせず、関連団体には自由観覧での参加を案内した。また、運営組織は最高学部学生を中心に中高生徒も加えて委員会を組織し、教職員はあくまで補佐役にとどまることが原則とされた。

7 月には学部リーダーと教員リーダーが顔合わせを行い、体操会の目指す姿を共有した。夏休み中もオンライン会議を重ね、組織表の検討、観覧席の配置、プログラムデザインの公募などが進められた。9 月からは中高リーダーも加わり、役割分担が決定した。特に、図書館で体操会の歴史を展示する企画は学生の発案によるものであり、準備の段階から学びを深める姿があった。

教職員の役割と課題

教職員は原則として補佐役と位置づけられたが、実際には学園全体の調整や安全管理を担う必要があり、担当教員に多くの業務が集中した。生活団・初等部との練習日程や待機場所の調整、パンフレット作成や HP 掲載文の作成、近隣への騒音告知、当日の進行管理、シルバリー人材センターへの来場者カウント依頼など、幅広い業務が含まれた。体育部に所属する教員が担当したことにより、演技面の調整が比較的円滑であったが、これは属人的な要因によるところが大きく、今後も持続可能な体制が必要である。

また、中高と学部の学期暦が異なることから、準備期間の不足が大きな課題となった。夏休み明けに短期間でリーダー会議や係決めを行うことは、生徒学生にとって負担が大きい。さらに、10 月上旬の開催は気候危機の影響から台風や猛暑のリスクも高く、開催時期の見直しが検討課題として浮上している。1~2 週間後ろにずらすことで、練習期間の確保やデンマークからの指導者との協働がより円滑になるとの意見も出された。

当日の様子

当日は晴天に恵まれ、午前中から正門前には長蛇の列ができた。事前のお知らせを工夫したことで混乱は最小限に抑えられ、会場内には生徒学生を含めて約 3,000 人が集った。

生活団は日常保育に取り入れている運動遊びを基調にした演技を発表し、最高学部生がそのサポートに立つ姿は異年齢交流の象徴となった。初等部は直前に学級閉鎖が相次いだが、それを感じさせない鋭利とした演技を披露した。懐かしい「1・2・3 年体操」の音楽が流れると、卒業生た

ちが自然に身体を動かす場面もあり、世代を超えた一体感を感じさせた。

中等部・高等部は共学化初年度にふさわしく、従来男女別で行っていた演目を再構成した。男女合同の体操を取り入れるとともに、伝統的な「全身体操」を『女子体操』『男子体操』として選択できる形にした。また「メイポールダンス」は学年や性別を超えて取り組むこととし、経験者が初心者を導く光景が随所で見られた。共学化初年度ならではの新鮮さが表れた演技であった。

最高学部は有志体操・全身体操ともに高い完成度を示し、身体を最大限に使った表現が観客を魅了した。特に、デンマークから来日した若い指導者と共に構成した演目は力強さと優雅さを兼ね備えており、一貫教育を経た学部生だからこそ可能な表現であった。さらに、Bowling 体育学校の卒業生チームによる特別演技が披露され、国際的な交流の広がりを示すものとなった。会場は熱気に包まれ、大きな拍手と歓声が響いた。

また、図書館では体操会の歴史を紹介する資料展示が行われ、多くの来場者が足を止めた。学生の発案によるものであり、体操会の伝統を振り返りつつ次代へとつなげる試みとなった。

運営と安全管理

運営面では、安全確保と円滑な進行が最優先された。来場者の入退場や観覧席の運営には工夫が凝らされ、正門前の混雑緩和やトイレのゾーニングも効果を上げた。一方で、優先席のベンチが倒れ来場者が転倒する事故が発生し、幸い大事には至らなかったが、設備改善の必要が浮き彫りになった。

高齢来場者の急病にも迅速に対応できたことは、事前の準備と教職員の連携の成果であった。撮影許可の範囲については保護者とその親族に限定し、リストバンドを配布する仕組みを導入したが、余剰が多く出るなど改善の余地も残された。

プログラムは学生が作成を担ったが、専門ソフトの有無により作業分担に差が生じた。次年度に向けて、継続的な引き継ぎや OJT による研修体制の整備が求められる。

教育的意義と今後の展望

本年度の体操会は、共学化初年度という大きな節目にあつて、学生生徒と教職員が模索しながら新たな形を築き上

げた行事であった。準備段階での困難や当日の対応は、自治教育の実践の場として得難い経験となったに違いない。

体操会は単なる発表会にとどまらず、身体・感性教育の実践、一貫教育の成果発表、自治教育の機会という三つの目的を有している。全校が一堂に会し、世代を超えて共に行事をつくり上げる営みは、学園教育の縮図そのものである。

今後は、教職員に過度な負担がかからない仕組みづくりや、開催時期の見直し、学生生徒が主体的に運営を担える体制の整備が課題である。同時に、体操会の歴史や意義を全教職員が深く理解し支援できるよう研修を充実させることも重要である。

本年度の試みと課題を踏まえ、体操会がこれからも自由学園の教育を体現する行事として発展していくことを期待したい。

出典

本章は、「2024 年度体操会『学園新聞』747 号掲載記事および「2024 年度体操会常務記録」(2024 年 11 月作成:資料室保管)の内容を再構成した。

2024年体操会プログラム

2024年		自由学園体操会		10月12日(土) 雨天の場合屋内開催	
開場 9時00分		閉会 15時頃			
午 前 の 部		10時より		午 後 の 部	
				13時40分より	
1	ファンファーレ……………	ブラスバンド	11	転回運動……………	最高 高等 部部 部部 有志
2	入 場 式……………	全 校	12	手 具 体 操……………	中 高 有 志
3	体 操……………	幼児生活団幼稚園	13	高等部体操(徒手) ……	高 等 部 2・3 年
4	体 操……………	初等部1・2・3年	14	高等部体操(クラブ) ……	高 等 部 2・3 年
5	体 操……………	初等部4・5・6年	15	高等部全身体操……………	高 等 部
6	競 走……………	幼児生活団幼稚園	16	有 志 体 操……………	最 高 学 部
7	中等部体操(徒手) ……	中 等 部 2・3 年	17	デンマークチーム演技 ……	Bøvling Team
8	中等部全身体操……………	中 等 部	18	男 子 体 操……………	中 等 部・高 等 部 有 志
9	家 族 リ レ ……	初 等 部	19	女 子 体 操……………	中 等 部・高 等 部 有 志
10	デンマークチーム演技 ……	Bøvling Team	20	学部全身体操……………	最 高 学 部 高 等 部
11	メイボールダンス……………	中 等 部・高 等 部 有 志	21	退 場 行 進……………	最 高 学 部 高 等 部
12	生 活 体 操……………	来 場 者・生 徒 学 生			
		休憩……………		12時頃より	